

中筋川ダムが中筋川の水位を下げました

～平成30年7月梅雨前線における中筋川ダムの防災操作～

- 梅雨前線の豪雨により、中筋川ダム上流域では、7月6日19時から8日13時までの累計雨量で292.7mm、最大時間雨量で約43mm(8日4-5時)の降雨となりました。
- この豪雨により中筋川は下流の磯ノ川地点で、避難判断水位(7.40m)超過を回避しました。
- 中筋川ダムでは、ダムへの最大流入量(毎秒約131m³)の約75%をダムで貯留し、ダム流下量を毎秒約32m³に低減しました。これにより下流の磯ノ川地点の水位を55cm低下させ、浸水被害の軽減に役立ちました。また、横瀬川ダムが完成していた場合は、さらに29cmの水位低減効果が期待できたと推測されます。

※本資料の数値等は推定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

平成30年7月18日

国土交通省 四国地方整備局
中筋川総合開発工事事務所

問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 中筋川総合開発工事事務所

電話(0880)66-0142

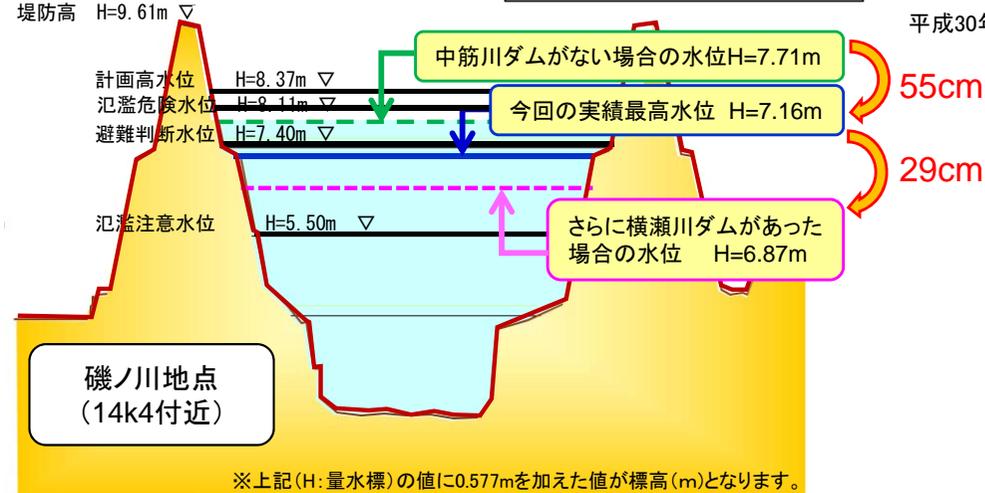
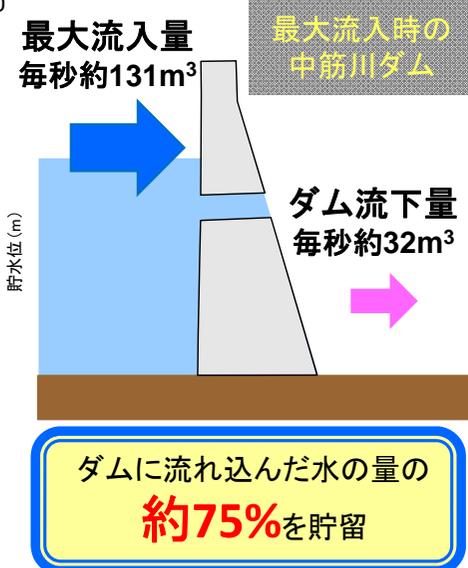
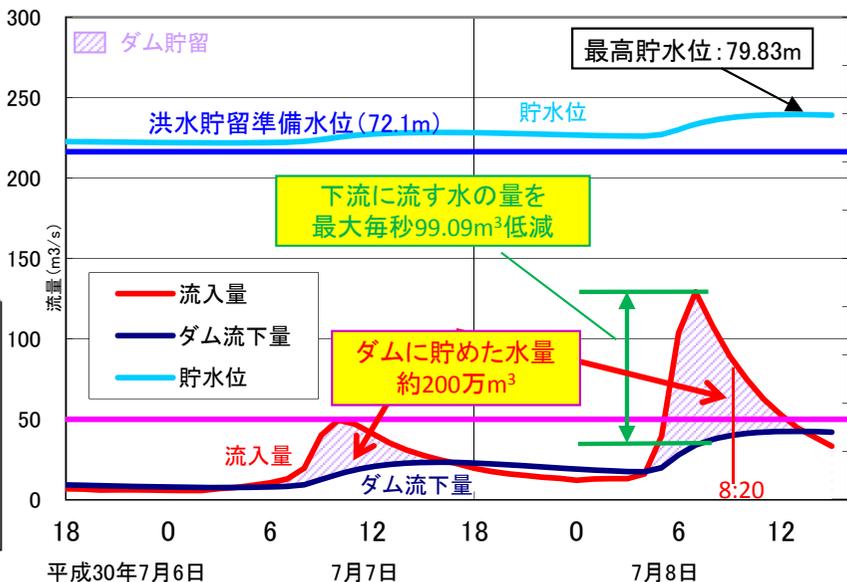
副所長	森本 修三	内線(204)
管理課長	宮崎 泰典	内線(6121)
◎調査設計課長	渡辺 雄二	内線(351)

◎主な問い合わせ先

中筋川ダムの効果と横瀬川ダムに期待される効果(高知県・渡川水系中筋川)

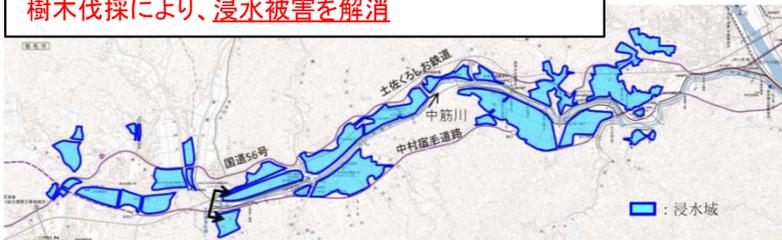
- 梅雨前線の降雨により中筋川ダム上流域では、7月6日19時から8日13時までに累計雨量で292.7mm(時間最大雨量43.1mm・7月8日5時)の降雨を観測しました。
- 中筋川ダムでは、ダムへの最大流入量131.4 m³/sの**約75%をダムで貯留し、磯ノ川地点の水位を55cm低減(避難判断水位+0.31m(7.71m)→避難判断水位-0.24m(7.16m))**させたことにより浸水被害はありませんでした。
※床上90戸を含む浸水家屋118戸の内水被害があった平成26年6月洪水時の磯ノ川地点の水位は7.65m
- 横瀬川ダムが完成していた場合には、さらに**29 cmの水位低減効果が期待できた**と推定されます。

※本資料の数値等は推定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



磯ノ川地点水位ピーク(平成30年7月8日8時20分)

平成26年6月の内水被害 床上90戸、床下28戸
 今回の出水では、ダムによる洪水調節と河道内の樹木伐採により、浸水被害を解消



平成26年6月梅雨前線による出水時の浸水状況(内水)

※上記(H:量水標)の値に0.577mを加えた値が標高(m)となります。